

## グループ討議 A 班の記録

### <現在家庭や企業に行っている事について>

- ・ 企業と協力して授業を行う。
- ・ まだ行っていないが準備をしたい。
- ・ これから行っていこうと思っている。

### <学校・家庭・企業が連携していく上での問題>

- ・ 必要性は感じているが何を教えたらよいかわからない。
- ・ 禁止教育が中心である。
- ・ 企業と協力して行っても単発で終わってしまい継続性がない。
- ・ 高校では小・中で情報教育を受けているという前提で情報の教科が行われている。
- ・ 禁止教育ではなく子どもたちに倫理観・道徳観を含めた上で有効な情報モラル教育を積極的に進めていくにはどうすればよいかわからない
- ・ 教員だけでは限界があり三者連携をうまく行うために必要なことがわからない。
- ・ 教員が教えていくべきか、専門知識のある企業の方などにお願いするべきか。
- ・ 社会生活上必要だと感じているが教育上の危機感が薄い。
- ・ 教員に求められるものが多すぎる。
- ・ 評価基準がないのでわざわざ情報モラル教育を行わない。
- ・ 教育課程の位置づけにおいて指導計画が明確ではない。
- ・ いつ教えればよいか。

### <学校・家庭・地域に望む事>

- ・ 指導計画やカリキュラムを作成する。
- ・ 参考となるよう事例を作り発表する。
- ・ 行政側から必要性を働きかける。

### <これから取り組むべきこと>

- ・ 子どもたちに教員の監視下でケータイやインターネットを利用させ実体験させる。
- ・ 教材はたくさんあるので状況にあった教材を使い実践していく。
- ・ 生活指導と絡めて行う。
- ・ 禁止教育だけでなく道徳や倫理の問題を含めた上で教える。

## グループ討議 B 班の記録

### <現在学校や企業に行っている事について>

- ・ 市教育センターで勉強会行っている。
- ・ 保護者にケータイ・インターネットの安全な利用について説明を行っている。
- ・ ファミリールールやケータイルールを作っている。
- ・ 小学校 6 年生（新中学 1 年生）に対し説明を行っている。
- ・ 行政に対し環境整備（条例等）を依頼している。
- ・ 企業に対し子どものアクセス先を親が見ることができるよう要請している。
- ・ 親への研修会の開催や、PR 活動を行っている。
- ・ 学校で情報モラル教育をするよう働きかけている。

### <学校・家庭・企業が連携していく上での問題>

- ・ ケータイに関する家庭でのルール作りの徹底されていない。
- ・ 料金やフィルタリングに関する親の道徳観・倫理観に問題がある。
- ・ 被害者から加害者になるなど子どもたちの想定外の行動に対しての対応に困っている。
- ・ 家庭によって PC 利用環境が異なり、知識に差がある。
- ・ 情報モラル教育の連携で抜け落ちてしまう部分の問題がある。
- ・ 利便性や娯楽性が重視され危険性にフォーカスされていないのではないか。
- ・ 子どもにケータイを買い与える時期に悩んでいる。
- ・ 世界的に見て日本の子どもは情報取得やソフトの扱いに関する能力が低い。
- ・ 日本のコンテンツは質が低い。
- ・ 有害サイトの規制がゆるく子どもたちが目に触れることで歪んだ成長を助長してしまう可能性がある。

### <学校・家庭・地域に望む事>

- ・ 保護者に対してわかりやすい説明を行ってほしい。
- ・ ケータイは子どものモラルとスキルの両面から判断して段階的に利用していくべきである。
- ・ 子どもに使用させないようにすることで子どもの好奇心を抑制してしまうのはよくない。
- ・ 自分で買ったケータイであっても自由に使っていていいという認識を持たせない。利用するには親の許諾が必要だという意識を持つ。
- ・ 子どもが被害にあったサイト・被害件数の公表をしてほしい。
- ・ 親の目が届く PC の利用から始めケータイへ移行させる。

- ・ 危険性について子どもに説明できる理論・知識を親が習得する。
- ・ 講師はわかりやすい説明を行い、保護者は講演を聞いたから安心だと安易に思わない。

#### <これから取り組むべきこと>

- ・ 幼児期から正しい利用方法について教える必要がある。
- ・ 子どもにとって安全で安心な機能を備えたケータイについて東京都が推奨を行う。
- ・ 地域の特色や課題を理解し利用状況にあった教材をそれぞれが選んで使う。
- ・ ネットに匿名性はないという教育をする。
- ・ きちんと弊害を教えることが大事である。
- ・ インターネット・ケータイは他者との関わりで成り立つものである以上、自分の家庭だけきちんとしていなければいけないので、教育の徹底が大事である。

### グループ討議 C 班の記録

#### <現在学校や家庭に行っている事について>

- ・ 子ども向けのサイトやフィルタリングなどの提供をしている。協議会を立ち上げ事業者として何が出来るかを研究している。
- ・ フィルタリングの説明をきちんとしたうえで、販売を行っている。
- ・ 学校や行政などに、独自で開発したプログラムを推進、啓発活動をおこなっている。
- ・ 教育というものにどう IT が活用できるか、教育の情報化と言う事を研究している。
- ・ IT 業界で子ども達が、活躍できるように、出前授業を行っている。
- ・ 防犯子どもの安全を提供している。
- ・ 子ども達とケータイの環境が今現在悲しいような状況になってしまっているのを、事業責任として安心・安全の提供の為に、小・中・高校、保護者、先生向けにルール Book を使い、講師の派遣を全国展開している。
- ・ インターネットを活用したフィルタリング Web サイトの運営、学校などにフィルタリング機能の提供などを、行っている。
- ・ ケータイサイトの健全化を社内でネットマナーなどに関する委員会を立ち上げ推進している。
- ・ ケータイサイトのパトロールを行いパトロール結果から、書き込みに分析などを行っている。地方の中・高生などが修学旅行に東京に来たさいに、会社に招待し、ネット安全教室などをおこなっている。
- ・ ケータイの出前授業や講師派遣、啓発活動を全国展開している。テキストは毎年改定しその時代にあったものを提供しています。

- ・ 小・中学生向きに安全な監視下の中で PC サイトを利用してもらっている。

#### <学校・家庭・企業が連携していくうえでの問題>

- ・ 保護者や地域向けに研修を行い、アンケートを取ったところ、理解されていないという事が分かった。
- ・ 面白くないと受け入れてもらえない。
- ・ 企業が教育へ熱心になっているが飽和状態である。
- ・ 研修や出前授業などを、行ってもこない親がいる。こない親に伝えるにはどうしたらよいか。
- ・ 企業名が出ると、学校や、地域などでは受け入れてもらえない。
- ・ 本来お伝えしたい保護者の方になかなかお伝えできない。(学校行事に参加できない保護者の方など)
- ・ 各教育委員会のインターネット・ケータイに関する、興味や関心の度合いに温度差がありすぎる。
- ・ ケータイの問題をさけている先生方がいる。
- ・ 電車の中などの光景を見ると、今一度、大人にも情報モラルが改めて必要だと思う。
- ・ 子どもを対象としている問題ではあるが、保護者や地域、学校に認められなければいけない。
- ・ 答えを教えるのではなく、気づいてもらうために、講師のファシリテーション能力をもっと上げて行かないといけない。
- ・ 学校の先生は忙しいので、学び取り組む時間が無い。

#### <学校・家庭・地域に望む事>

- ・ 情報モラルの問題は家庭だけに任せるのは厳しいので、学校に参加されない保護者の子ども達の為にも皆が集まる、学校で取り組んでほしい。
- ・ 企業だけではなく、教える事に関してのプロの先生方にも、もっと情報モラルについて学んでほしい。
- ・ 先生と企業の役割分担が必要。
- ・ 子どもが、どんなサイトやゲームで遊んでいるのかをもっと保護者の方に体験学習で、知ってほしい。

#### <これから取り組むべきこと>

- ・ こども達に遊びを通じて学んでもらう事。体験型学習やゲームなど。

- ・ 先生方に、企業のインストラクターの啓発活動を見てもらいノウハウを身に付けてもらう。
- ・ 学校に参加できない保護者の為に、会社間で、研修を行う。
- ・ 企業努力が、学校に伝わるように、道徳に入れる総合学習に入れるなど、きちんとした位置づけが必要。
- ・ 先生が見るアンチョコを作成する。